# 名経大とつくる

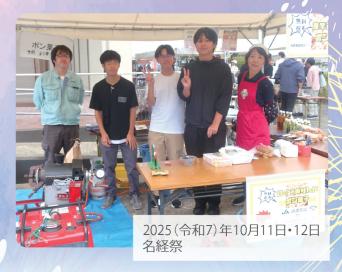
- ●石上げ祭
- ●第23回名経祭
- ●第28回楽田夏まつり
- ●八ツ八祭
- ●田県の郷夏祭り

## 地域の未来を応援!

●扶桑町職員とのワークショップ2025

## 地域とともほ学ぼう!

●副専攻プログラム





名古屋経済大学地域連携セシター NEWS WOL.29[2025.NOVEMBER]



名古屋経済大学は、地域のみなさまとともに持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

## 石上げ祭

~天下の奇祭・

### 愛知県指定無形民俗文化財

酷暑の中、今年は学生・教職員合わせて30名が参加。献石を8点 吊りのリンギ棒と呼ばれる運搬具に願い事を書いた手ぬぐいととも に吊るし、山頂まで運びました。



2025(令和7)年8月3日(日) 犬山市・尾張冨士

### 尾張冨士石上げ祭伝承保存会 ×名経大

今年も無事山頂へ。 献石の様子。





江戸時代に大宮浅間神社の祭神である木花開耶姫 (このはなさくやひめ)が近くの村人の夢に現れ、隣の 本宮山よりも尾張冨士の方が低いことを嘆き、山頂に 石を積み上げたならば願いをかなえると言ったという 背比べ伝説」が伝えられています。

(犬山観光ナビホームページより)

#### これまでの取り組み





大学周辺では様々な「まつり」が行われ、地元の方からのお声かけにより 学生がボランティアなどの活動を重ねてきました。近年の大学祭「名経祭」 では地域住民の方にお越しいただき、学生と楽しそうに会話をしている姿 を見かけます。今年の名経祭も盛大に開催されました。

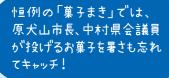




2025(令和7)年8月30日(土)

犬山市・エナジーサポート(株)グラウンド

今年は大学から2店舗が出店。名経祭実行委員メンバー はポップコーン販売のかたわら、大学祭の案内チラシを来 場者へ配布し、物販サークルNextry.はフランクフルトを販 売。大学に隣接する地域のおまつりを盛り上げました。









これまでの取り組み





#### 地域連携センターニュース8号 地域連携センターニュース11号 地域連携センターニュース23号

**%** 

## ハツハ祭

に数えで8歳になる子どもの無病息災を祈念し て、茅で作られた大きな輪を8の字にくぐる「八ツ

地域活動団体「楽田桃色」からブース出店の協 力依頼を受け、学生9名がボランティアスタッフと

2025(令和7)年10月11日(土)~12日(日)

企業×地域のみなさま



沿道に並ぶ灯籠は地元の 幼稚園園児が作りました。 名古屋経済大学附属市邨 4カ稚園も参かしています。

犬山市の公式キャラクター 「わん丸君」も参拝に訪れ、

ブースに立ち寄ってくれました。

2025(令和7)年8月8日(金

はじめてボランティア活動に参加しました。小さい子が親と手をつな ぎながらブースに来てくれる姿を見て、小さい時の記憶がよみがえり、家 族と夏祭りにでかけたことがとても懐かしく思い出されました。同時に 家族との時間を大切にしなくては…とハッとしました。アルバイト先でも 子どもと接する機会が多く、この経験が活かされています。これからも いろんな活動に参加したいです。

0000

経営学部1年 白川 心結





名古屋経済大学

季節柄地域とともに楽しく集う「まつり」が開催されていく。本来 祭りは地の神々に感謝し、地域社会の安寧を願うものではある。 一方で文化遺産的な視点から見ていくと、地域の人々との関わりが 重要であり、そこに文化遺産としてのマツリ志向性が見えてくる。 継承と参加、そこに集う人々の表情が次なるマツリを生み出すのだ。

NPO法人古代邇波の里・文化遺産ネットワーク理事長 (名古屋経済大学犬山学研究センター 客員教授) 赤塚次郎さん

## 田県の郷夏

名鉄小牧線・田県神社駅の大学スクールバスのバス停隣りにある「田県の郷」は2023(令和6)年 6月にオープン。通常の利用者だけでなく、老若男女が集まる夏祭りに本学学生が7名参加。 受付をはじめ運営ボランティアを通じて、来場者と一緒にまつりを楽しみました。

高齢者の健康増進や教養の 向上を目的とした施設。 通常は60歳以上の小牧市民 が利用し、一般開放日は市民 ならどなたでも利用可能。





2025(令和7)年8月5日(火) 小牧市田県の郷(たがたのさと)

第3老人福祉センター

田県の郷×名経大





大好きだったおじいちゃん、おばあちゃ んはすでに他界しています。祭りに参加し てくれたご年配方々との交流はとても懐 かしく、忙しいながらも楽しく感じ、自分 は人と接することが好きだということを 再認識できました。今後もこのような活 動があれば積極的に参加したいです。

経営学部2年●東倉 琉成



### 地域の未来を応援!

### 扶桑町職員とのり ショップ2025

「若い世代が住みたいまちとは?」をテーマに第4回扶 桑町職員とのワークショップが行われました。町職員か ら「扶桑町」について説明を受け、若手職員と学生が4つ のグループに分かれ「移住・定住」について意見をまとめ ました。「大学周辺地域(尾張北部地区)は、ほどよく都会 で自然豊か。田舎と都会のバランスがとれていて住みや すいと思う」など意見が発表されました。

今年は留学生も2名 参加しました。

2025(令和7)年9月16日(火) 名古屋経済大学









#### 扶桑町若手職員の声

●若者世代からの意見を聞くことは、普 段機会が少ないと思う。貴重な機会だと 感じたし、改めていただいた意見を大切 にしていきたいと思った。

同じグループの学生が、扶桑町のことが 好きだと言ってくれたことが嬉しかった。

●若者にとって住みたいまちは、必要な 機能を備え緑のあるまちだと話していた のが意外であったため、社会貢献事業と して意義のある活動と感じました。



#### 参加学生の声(活動アンケートより)

参加後の印象がよくなった…88%

- ●職員さんたちみんな侵しく教えてくれたから。
- ●職員さんがフレンドリーに接してくれて話しやすかった から。公務員も進路に終且み込んで考えていきたいです。
- ●自分のまちや扶桑町について考えました。 テーマが少し難しく感じましたが、たくさんの交流ができ、 たくさんのことを学べたので、良かったです。

参加後の47象は変わらなかった…12%

●3年連続の参加で、変わらず楽しく 学びのある活動だったから。

### 地域とともに学ぼう!

## 副専攻プログラム

### ~学部の学びにプラス~

名古屋経済大学では、「社会課題の解決を目指す実践的な プログラム」として専門領域を越えて、幅広い学問的視野を 身につけることを目的とした学部横断型の副専攻プログラ ム(地域創生・観光・文化遺産コース、環境共生・里山SDG sコース、グローバルコミュニケーションコース) があります。 今回は「環境共生・里山SDGsコース」の紹介をします。



のひとつ「竹チップ」は竹の整備・間伐で の廃材を利用した土壌改良材としての活 用が期待されています。 大学の敷地に隣接する 「ケケオオ」へそ多重かし「ケケチップ」

づくりを4本験しました。

㈱竹藤商店の秦野社長を講師にお招き

し、「竹産業の変遷と自走式粉砕機導入に

よる地域の竹材利用の活性化」について

ご講演いただきました。新たな竹の利用法

(株)竹藤商店×名経>

2025(令和7)年5月29日(木)











名古屋経済大学







「環境共生・里山SDGsコース」では、地域の自然 や生き物の理解をベースに、本学の専門教員と地域 の実務家が連携し、地域資源の持続的な利活用に 関する講義と実習を展開しています。

フィールドワークの例:①間伐材・竹の炭化と付 属幼稚園の畑への投入試験、②㈱竹藤商店と連携 しオンサイトでの竹チップ製造及び英国式石積み 体験、③キャンパス周辺の水質調査、④木曽川河床 や岩崎山での岩石の詳細な説明、⑤今井地区での 森林資源量調査など。これら事例を活かし、近隣高 校との高大連携も目指しています。

経営学部准教授●郡 麻里





●お問い合わせ先

地域連携センター TEL0568-68-3282

FAX 0568- 67-0724 MAIL chiiki-c@nue.ac.jp

〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 TEL0568-67-0511(代表)